

生涯学習の実践活動①

「生涯学習と価値創造」「協働と持続的発展」のまちづくりのために

(1) 市民総代会システム（昭和53年～）

- ・「掛川学事始めの集い」としてスタート
- ・毎年自治区3役など地域の世話人を市民総代とし、市長から施政方針や話題提供をすると共に、市民総代からの市に対する要望や意見、苦情、アイデアなどを聴取して翌年度以降の事業に反映していくもの

(2) 生涯学習施設ネットワーク

① 三層建て生涯学習施設ネットワーク（掛川地区）

- ・昭和58年に第三層の中央生涯学習センター完成。これに伴い、三層にわたる生涯学習施設ネットワークを構築した。
- ・「一人一芸一スポーツ」、「一人一業一ボランティア」、「一人一役一健康法」をモットーに、市民の皆さんに多彩な学習運動を展開
- ・特色的なものとして、第二層の地域生涯学習センターが20カ所あり、旧村単にある小学校を、地域の核「学校は地域の太陽である」とし、学校に隣接・併設する形で建設したセンターで、体育館・グラウンドなどを複合的に活用している。
- ・第三層の中央施設郡には、健康安心サロン（人間ドックセンター）、環境市民ギャラリー（ごみ焼却施設）、生物循環パビリオン（し尿処理場）、水質保全センター（下水処理場）など、市の公共施設全てを含んでいます。これらは、全て住みよいまちづくりを目指すための学習施設です。

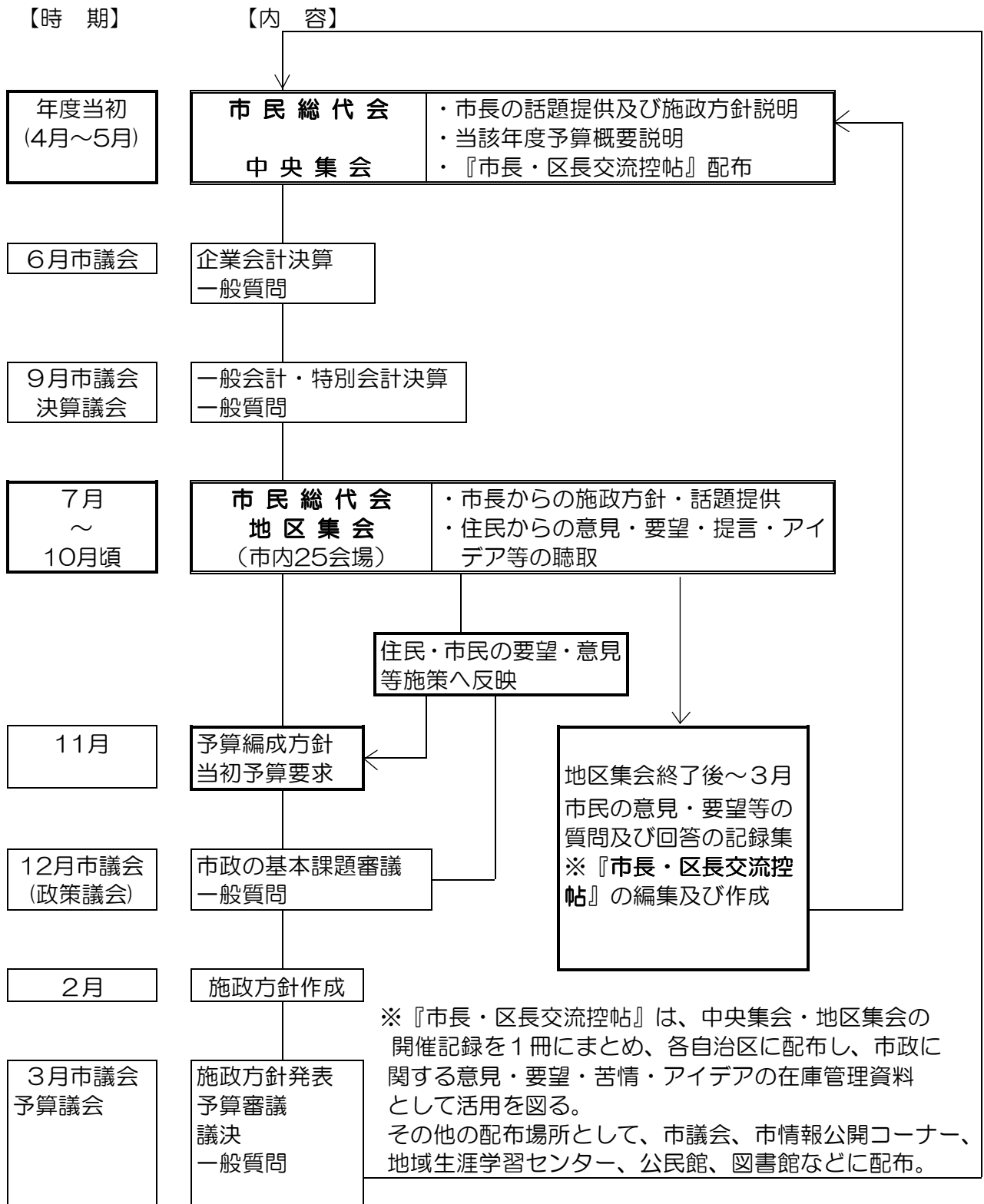
② 生涯学習施設ネットワーク（大東・大須賀地区）

- ・大東・大須賀地区では、公民館制度をとっていたため、まちづくり・ひとづくりの視点から地域生涯学習のネットワークを構築する。
- ・大規模社会教育施設として、文化会館シオーネ、吉岡彌生記念館、大須賀中央公民館等
- ・現在6カ所設置済み。あと、4カ所の第二層のセンターの設立を推進している。

(3) 「掛川市生涯学習まちづくり土地条例」の制定（平成3年3月議会）

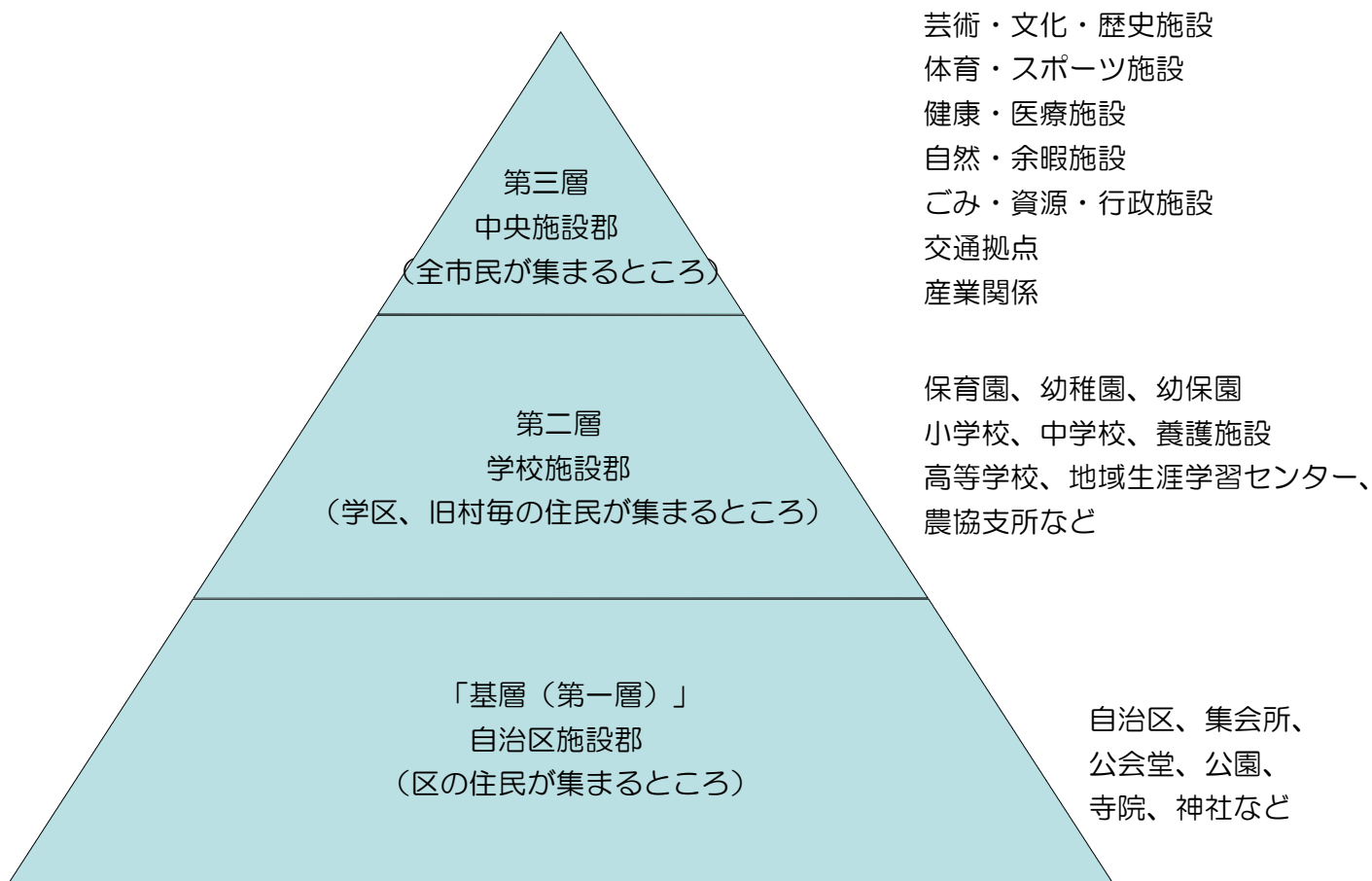
- ・土地は市民のための限られた資源であり、公共性に基づいて適正に利用することが大切であるという、土地に関する生涯学習のすすめ
- ・地価高騰、投機的取引、乱開発等によるスプロール化を防止するとともに、開発・保全を平行共存させる土地利用の推進
- ・特別計画協定区域として、住民主体で「まちづくり計画」を策定、計画権を源泉とした土地利用をはかる
- ・ごきょうえきごりょうしつ五共益五良質体制（地権者、周辺住民・自治区、開発者ゼネコン、誘致企業、掛川市の五者がともに益し、ともに良質である体制）による適切な土地利用

市民総代会と行政経営年間サイクルとの関係図



注 市民総代会における「総代」とは、各自治区三役（区長・副区長・会計）をはじめ、地区各組織の役職者及び市政や地域のことを考えて集会に参加いただいた市民の方を総称しているものであり、代表者のみを指すものではありません。

生涯学習の三層構造



(4) 生涯投票率の向上運動

- ・ 平均寿命80歳の間に行われる6種類の選挙（市長・市議・県知事・県議・衆参議員）は約100回、その100票について100%行使を呼びかけ
- ・ 政治を馬鹿にするものは、馬鹿な政治の下で暮らさなければならない
- ・ 投票記念証（しおり）の配布（H22から廃止）

(5) 全市生涯学習公園化計画・・・本格的に緑化された価値ある都市に

- ・ 緑の精神回廊 防災と美観の公共空間を兼ね備えた緑あふれる歩道のネットワーク
H9, 10 計画策定
H13～ 整備中
- ・ 毎年4月植樹祭、10～11月育樹祭、
フラワーフェスティバル（11月）
- ・ 自治区毎の緑化計画のすすめ、そして万緑化のまちへ

(6) 女性会議

(昭和55年～平成元年：婦人議会、平成2年～平成21年：女性会議)平成21年終了
・地方自治を学習し、掛川市の現状と洗練された女性活動をすすめるとともに、模擬市議会を通じて女性の立場で提言し、市政に反映

主催…女性会議事務局、会議員…35人以内、任期…1年

本会議…年1回、委員会・運営委員会…随時、研修会

女性会議だより『あけぼの』発刊

・平成21年度までに延べ850人に委嘱、事業費は委託費1,000千円。

(7) まちづくり塾の開催

(平成7年～平成17年：とはなにか学舎、平成18年～平成22年：掛川市民大学校、平成23年～：まちづくり塾)

・掛川市を代表する社会人向け生涯学習講座

・講座は1年間で、次の①～④の授業(約30回)でなりたつ

① 行政関係者や地域づくり実践者などを講師に招いた「人づくり講義」

② 掛川のまちづくりについてグループで主体的に学び実践する「分科会活動」

③ 掛川の名所・名園・名施設をバスで巡る現地学習「学びのバス」

④ ファシリテーターとしてのノウハウを身につける

・とはなにか学舎の卒業生「とはなにか学士」(320人)が、様々な団体やサークルを組織し、今、求められている市民主体の地域づくり活動が行われている

・事業費は、委託費3,000千円

(8) 生涯学習アドバイザーの設置

(昭和59年～平成21年まで10人(延べ255人)に委嘱)

・生涯学習推進リーダーとして、毎年約10人に委嘱をし、それぞれの得意分野を生かした講座等の企画・運営など、生涯学習のアドバイザー的な活動をしてもらっている

・開催講座は、ホテル鑑賞会、小学生のお菓子教室、健康講座等など年間20～30講座

・事業費は、活動費800千円、報償費3,648千円